

別添資料 1

授業科目名		配当年次	開講学期	単位数	担当教員名
看護情報学		2年	春	1	中上 裕有樹
授業概要	情報とは何かについて理解し、その「いかし方」と「まもり方」、社会における情報の活用、情報通信技術 (ICT)、情報倫理やモラル、情報を取り扱う際の規定や諸課題を学び、ICTを活用するための基礎的な力を身につける。看護の分野で活用する医療・看護情報の特徴や医療現場におけるICT活用の実践的な取り組み等について学び、情報活用についての理解を深める。また、パソコンの基本操作と情報処理の基本的な方法を学び、データの活用およびヘルスケアへの応用利用、研究的視点のための統計学の基本的な考え方と方法について学習する。				
到達目標	1. 看護における情報の種類と特徴について説明できる。 2. 看護における情報倫理について、その意義と諸問題を説明できる。 3. 医療・看護情報の特徴、情報活用、医療現場における実践的な取り組みについて理解できる。 4. 医療・看護情報における統計学の基本的な考えと方法を理解できる。	評価の方法と基準	「定期試験」70% 「小テスト」30%		
事前・事後学習	事前課題：授業の進度に沿って、教科書の該当箇所を読んでくること。 事後課題：各回のレジュメの内容および授業内容を確認しておくこと。疑問点があれば次回の授業時に質問すること。				
学方授与	DP 2 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、適切な看護を実践するための基礎的知識を修得している。 DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。				○ ◎
教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学	中山和弘 ほか	医学書院eテキスト		2021年
参考書					
備考					

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス 情報と情報社会①	授業ガイダンス 情報の定義と特徴
2	情報と情報社会②	社会と情報
3	保健医療における情報①	保健医療と情報（医療における情報、エビデンス情報に基づいた保健医療、ヘルスプロモーションと情報）
4	保健医療における情報②	看護と情報（看護における情報、情報社会と看護）
5	保健医療における情報③	医療における情報システム（医療における情報の記録、病院情報システムと記録の仕方）
6	保健医療における情報④	医療における情報システム（地域医療福祉のネットワークと情報システム）
7	情報と倫理①	患者の権利と情報、個人情報の保護
8	情報と倫理②	コンピュータリテラシーとセキュリティ
9	情報処理①	既存の情報の収集（文献検索、文献検索演習）
10	情報処理②	既存の情報の収集（インターネット上で役立つ情報へのアクセス、データ検索と利用）
11	情報処理③	質問紙調査によるデータ収集
12	情報処理④	Excelによる統計解析（基本操作、データの種類の、単純集計、基本統計量、正規分布）
13	情報処理⑤	Excelによる統計解析（統計的推定、標本のデータ間の各種検定、平均の検定など）
14	情報処理⑥	Excelによる統計解析（相関、単回帰分析）
15	まとめ	まとめ

※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。

別添資料 2

授業科目名		配当年次	開講学期	単位数	担当教員名
情報通信技術と看護		4 年	秋	1	金岡 麻希、塚原 ひとみ、大倉 美鶴、金田 浩太郎、原賀 美紀
授業概要	保健医療福祉分野において発展し続ける情報通信技術（ICT）活用の現状を知り、看護における活用の在り方について学ぶ。具体的には「医療機関内」「地域連携医療」「日常生活圏での医療」「災害・救急現場」といった各フィールドで導入されるICTの実際について学ぶとともに、「看護情報学」での学びを基に、これからの保健医療福祉を担う看護専門職者として、看護の対象である人を中心としたICTの利活用の拡大と看護専門職者が果たす役割について考察する。				
到達目標	1. 保健医療福祉分野におけるICT利活用の効果について説明できる 2. 保健医療福祉の各フィールドにおけるICTの活用の実際を説明できる。 3. 医療・看護におけるICT利活用の拡大に伴い看護が果たす役割を説明できる。	評価の方法と基準	「定期試験」60％ 「課題レポート」40％		
事前・事後学習	事前課題：授業の進度に沿って、提示する講義資料を読んでおくこと。 事後課題：各回のレジュメの内容および授業内容を確認しておくこと。疑問点があれば次回の授業時に質問すること。				
学方位授与	DP 4 保健医療福祉の場における看護専門職の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。				○
	DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。				◎
教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学	中山和弘 ほか	医学書院eテキスト		2021年
参考書					
備考					

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス 医療福祉分野におけるICT	授業ガイダンス 保健医療福祉分野におけるICTの発展と活用により期待される効果（医療の質向上・業務の効率化・安全性向上・患者サービス向上）（金岡）
2	医療機関内におけるICTの実践①	統合型医療情報システムと看護の視点から見た運用（塚原）
3	医療機関内におけるICTの実践②	医療機関内の情報システムと看護：医療従事者・患者情報管理システム、看護業務記録・分析システム、服薬支援システム（塚原）
4	地域医療連携におけるICTの実践①	地域医療連携支援システムによる「切れ目のない」医療と看護（大倉）
5	地域医療連携におけるICTの実践②	遠隔診断支援システム、診療情報閲覧システムによる地域の医療提供体制の変化と遠隔看護（大倉）
6	日常生活圏におけるICTの実践	健康生活を支える情報通信技術（在宅健康管理支援システムなど）と看護（原賀）
7	災害・救急医療におけるICTの実践	災害時や救急医療におけるICT活用がもたらす効果（広域災害・救急医療情報システム、救急患者対応支援・患者特定システム）（金田）
8	授業のまとめ	医療・看護におけるICT活用の拡大と看護が果たす役割（金岡）

※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。

別添資料 3

授業科目名		配当年次	開講学期	単位数	担当教員名
看護研究入門		3年	春	1	塚原 ひとみ
授業概要	看護実践力を高めていく自己研鑽力を養い看護を探究するために、保健医療福祉分野の蓄積された情報を正しく読み解き活用して、看護研究に必要な基礎的能力を養う。看護研究の意義や研究デザイン、情報及び情報手段を主体的に選択して文献データベースの活用による文献検索と文献検討、人を対象とする研究の倫理、研究倫理にかかわる指針などについての基礎知識を学ぶ。さらに、研究テーマの設定から研究計画書の作成といった過程のすすめ方について学ぶ。				
到達目標	1. 看護研究の目的や意義が理解できる。 2. 看護研究のプロセスが理解できる。 3. 文献データベースを活用した文献検索と文献検討が行える。 4. 研究計画書作成のプロセスの留意点を説明できる。	評価の方法と基準	「定期試験」80％ 「課題レポート」20％		
事前・事後学習	事前に提示するテキストの該当箇所や資料を読み、授業に参加すること。事後は授業での課題や内容の重要事項の整理を行うこと。				
学位授与方針	DP 2 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、適切な看護を実践するための基礎的知識を修得している。				○
	DP 6 自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。				○
	DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。				◎
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版	坂下玲子 他	医学書院eテキスト	2023年	
参考書	かんたん看護研究 改定第2版	桂敏樹/星野明子	南江堂	2020年	
	看護研究Step by Step 第6版	黒田裕子	医学書院	2023年	
備考					

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス、看護研究とは	研究とは何か、看護研究・臨床看護研究における研究の意義と目的
2	看護研究のプロセス	研究疑問から研究課題へ 研究の実践、報告までのプロセス
3	研究デザインⅠ	量的研究デザインを中心とした研究手法の特徴、量的デザインのデータとは何か、研究方法と分析
4	研究デザインⅡ	質的研究デザインを中心とした研究手法の特徴、質的デザインのデータとは何か、研究方法と分析
5	研究と倫理	研究における倫理的配慮、人を対象とする研究の倫理指針
6	研究課題の明確化と研究デザインを選択するためのICTの活用	文献検索の意義と方法、研究で用いる文献データベースの活用
7	文献検討の実際	文献クリティークの実際
8	研究計画書作成のプロセス	研究疑問から研究実践に向けた一貫した研究計画書の作成プロセスと留意点

※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。

別添資料 4

授業科目名	配当年次	開講学期	単位数	担当教員名
看護研究演習	4年	通年	2	塚原 ひとみ、中嶋 恵美子、大倉 美鶴、梶原 弘平、金岡 麻希、金田 浩太郎、濱田 裕子、原賀 美紀、中島 充代、石村 美由紀、大谷 良子、佐藤 亜紀、末永 陽子、古庄 夏香、吉田 恭子、衛藤 泰秀、鹿嶋 聡子、佐藤 繭子、柴崎 卓己子、道面 千恵子、服部 智子、政時 和美、吉川 未桜、中本 亮

授 業 概 要	自ら研究課題を発見するために、保健医療福祉分野の蓄積された情報を正しく読み解き活用して、看護研究テーマを決定する。さらに、情報手段を主体的に選択して、テーマ周辺の文献をICTを活用して広く収集・読み解き、研究計画書の立案、実施、結果の分析、考察、成果を記述する。その過程において、3つのリサーチリテラシーの力として①データを正確に分析する力②論理的に書く力、③研究成果を効果的に発表するためのプレゼンテーション能力を養う。特に、人を対象とする研究実践の場合は、人を対象とする研究の倫理指針に基づいて実践する。			
到達目標	1. 情報収集手段を選択して、テーマ周辺の文献をICTを活用して広く収集し読み解き、自己の研究テーマを明確化できる。 2. 研究テーマに沿った研究デザインを選択し、研究計画書を作成することができる。 3. 研究を実践することができる。 4. 研究実践のデータを正しく分析し、抄録、論文を作成できる。 5. 研究内容を的確に周知できる資料を作成し発表できる。	評価の方法と基準	「研究計画書の作成」30％ 「研究論文・研究抄録の作成」30％ 「研究成果の報告」20％ 「研究発表会の発表」20％	
事前事後学習	事前事後の学習時間を有効に活用し主体的に学習を進めること。研究テーマの探索のための文献の検索、研究計画書の作成、論文の作成、研究実施のための調整、研究発表準備など指導教員の指導を受け、自主的に進めること。			
学位授与方針	DP 2 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、適切な看護を実践するための基礎的知識を修得している。			○
	DP 5 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観・使命感に基づき行動できる。			○
	DP 6 自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。			○
	DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。			◎
	DP 8 地域の視点とグローバルな視点から看護を創造的に思考できる。			○
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版	坂下玲子 他	医学書院 e テキスト	2023年
参考書	かんたん看護研究 改定第2版	桂敏樹/星野明子	南江堂	2020年
	看護研究Step by Step 第6版	黒田裕子	医学書院	2023年
備考				

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	研究の進め方ガイダンス1	看護研究についてのガイダンスおよびシラバスの説明（塚原） 研究テーマの探索、研究計画書の構成要素、倫理的配慮について
2	研究の進め方ガイダンス2	看護研究ゼミ、看護研究実践時の留意点、成績評価について（塚原）
3	看護研究ゼミ1	3回目～14回目講師以上教員全員が3～4名の学生をグループ、個人指導（全員） 指導教員の支援を受け、個々の課題に基づき、研究テーマを明確化し、研究デザインを決定するにあたり、情報手段を主体的に選択して、テーマ周辺の文献をICTを活用して広く収集・読み解き、実践可能な研究計画書を立案する。
4	看護研究ゼミ2	
5	看護研究ゼミ3	
6	看護研究ゼミ4	
7	看護研究ゼミ5	
8	看護研究ゼミ6	
9	看護研究ゼミ7	
10	看護研究ゼミ8	
11	看護研究ゼミ9	
12	看護研究ゼミ10	
13	看護研究ゼミ11	
14	看護研究ゼミ12	
15	看護研究ゼミ13	研究計画書を指導教員へ最終提出と研究実施準備（全員）

16	抄録・論文作成と発表会ガイダンス	抄録・論文作成と発表会準備と運営についてのガイダンス（塚原）
17	看護研究ゼミ14	17回目～27回目講師以上教員全員が3～4名の学生をグループ、個人指導（全員）指導教員の支援を受け作成した研究計画書に基づき、研究の実践、結果の分析、論文・抄録の作成、研究発表会準備を行う。 得られたデータの分析、考察にあたっては、インターネットを通しての情報収集や検索データベースを用いて既存の文献を正確に活用する。
18	看護研究ゼミ15	
19	看護研究ゼミ16	
20	看護研究ゼミ17	
21	看護研究ゼミ18	
22	看護研究ゼミ19	
23	看護研究ゼミ20	
24	看護研究ゼミ21	
25	看護研究ゼミ22	
26	看護研究ゼミ23	
27	看護研究ゼミ24	
28	研究発表会準備	研究発表会運営、全体資料準備、発表資料の投影確認（塚原）
29	看護研究発表会1	学生主体による「研究発表会の実施運営」（全員）
30	看護研究発表会2	看護研究発表会で学生個々が研究発表を行う。

※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。

授業科目名		配当年次	開講学期	単位数	担当教員名
看護の統合実習		4年	春	2	末永 陽子、中嶋 恵美子、塚原 ひとみ、大倉 美鶴、梶原 弘平、金岡 麻希、濱田 裕子、原賀 美紀、中島 充代、石村 美由紀、大谷 良子、佐藤 亜紀、古庄 夏香、吉田 恭子、衛藤 泰秀、鹿嶋 聡子、佐藤 繭子、道面 千恵子、服部 智子、政時 和美、吉川 未桜、中本 亮、河本 乃里
授業概要	各領域（基盤看護・臨床看護・子どもと家族の看護・地域看護）の実習で獲得してきた看護実践力をさらに高め、拡大することを目指す。学生自身が設定した課題に関する情報及び情報手段を主体的に選択し、収集活用し、意欲的に課題解決に向けた実習計画を立案し実習を行う。看護管理・安全管理、情報管理の視点を加え、これまで学習してきた知識や技能を統合・応用し、看護実践を行う。今後、ICT の活用が促進される保健医療福祉の領域で看護が担う役割を理解して、看護を主体的に実践できるよう自己の看護観を深める力を養う。				
到達目標	1. 課題に関する情報及び情報手段を主体的に選択・収集活用し、意欲的に課題の探究に向けた実習を計画できる。 2. 看護管理・安全管理の視点にもとづき、看護実践ができる。 3. 看護実践の現場におけるICT活用の視点で看護師の役割を考察できる。 4. 自己の看護実践力を振り返り、看護観を表現できる。	評価の方法と基準	到達目標に対する達成度を、実習状況・実習記録80%、課題レポート20%で評価する。		
事前・事後学習	事前学習：自己の看護課題解決、実習計画に関連する既習科目の資料や文献等の情報を的確に収集分析し実習に臨むこと。 事後学習：実習期間中は、当日の実習を振り返り、翌日の実習計画を立てる。				
学位授与方針	DP 3 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）に対して科学的根拠に基づき良質な看護が実践できる。				○
	DP 4 保健医療福祉の場における看護専門職の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。				○
	DP 5 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観・使命感に基づき行動できる。				○
	DP 6 自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。				◎
	DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。				○
	DP 8 地域の視点とグローバルな視点から看護を創造的に思考できる。				○
教科書	既習の教科書すべて				
参考書	計画した実習に関連する書籍				
備考	保健福祉医療の場で看護師、助産師、保健師としての実務経験のある教員が行う授業です。				
週	授業スケジュール・内容				
	1. 実習期間：2週間 2. 実習場所：各領域実習の全ての実習施設が対象 3. 実習計画： ①情報通信技術の基礎的知識と技術を活用し、自己の看護課題に関する先行研究等を用いて、課題解決に向けた実習計画の立案内容と看護実践の評価・考察をする。 ②実習内容は複数の患者の看護実践や専門領域の追求、一勤務帯を通した実習など自己の課題解決に向けて、実習場所と調整した上で実施可能な内容を計画する。 ③実習計画は看護管理・安全管理、ICT活用の視点を加えたものとし、保健医療福祉のチームの一員としての実習を計画する。 4. 実習方法：決定した実習領域・実習場所で個々の実習計画に沿って臨地実習を行う。				
1	【1週目】 1～4日目：臨地実習 ・立案した実習計画に沿って実習を行う。 5日目：学内実習 ・看護実践の振り返り・評価（看護の諸理論や文献を活用し実習を振り返る）、実習計画の見直し、記録の整理				

2	【2週目】 6～8日目：臨地実習 ・1週目の看護実践の振り返り・評価をもとに自己の計画に沿って看護を展開する。 9日目：臨地実習 ・自己の看護実践の評価・考察、今後の課題についてカンファレンスで発表する。 10日目：学内実習 ・実習を振り返り、設定した課題に沿って自己の看護実践を評価・考察する。 ・実習の振り返り・評価・考察から、今後の課題や目標、看護観をまとめる。
---	---

※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。

別添資料 6 教育課程等の概要

新																	旧																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年 次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	科目 区分	授業科目の名称	配当年 次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助手を除く） 教員						必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実験・実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 （助手を除く） 教員		
専門基礎教育	スタートアップゼミ	1前	○	1				○		8	6	8				オムニバス 共同（一部）	専門基礎教育	スタートアップゼミ	1前	○	1				○			8	6	9			1	オムニバス 共同（一部）
	人体の構造と機能Ⅰ	1前	○	2			○			1						略		看護情報学	1前	○	1				○			1					略	
	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略		略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略		
	臨床病態学Ⅱ（脳神経、呼吸器、循環器）	1後	○	2			○			1						略		臨床病態学Ⅱ（脳神経、呼吸器、循環器）	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	
	看護情報学	2前	○	1			○							1		略		看護情報学	1後	○	2				○			1					略	
略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略		
専門教育	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	専門教育	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	
	看護の統合	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略		看護の統合	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	
		看護研究演習	4通	○	2				○		9	6	9					オムニバス 共同（一部）	看護研究演習	4通	○	2					○		9	6	10			略
		情報通信技術と看護	4後	○	1			○			5							オムニバス	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	
		略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略		略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	
小計（8科目）	—	—	11				—		9	6	9	13	2			小計（8科目）	—	—	10				—			9	6	10	12	2				
略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略		
合計（165科目）				—	—	102	163	29	—		9	6	9	14	2	57	合計（164科目）				—	—	101	163	29	—		9	6	10	13	2	57	

別添資料 7 授業科目の概要

新					旧						
科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容		科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容		
略		略	略	略		略	略	略	略		
専門教育	看護の統合	略	略	略	略	専門教育	看護の統合	略	略	略	
		看護研究入門	○	看護実践力を高めていく自己研鑽力を養い看護を探究するために、保健医療福祉分野の蓄積された情報を正しく読み解き活用して、看護研究に必要な基礎的能力を養う。看護研究の意義や研究デザイン、情報及び情報手段を主体的に選択して文献データベースの活用による文献検索と文献検討、人を対象とする研究の倫理、研究倫理にかかわる指針などについての基礎知識を学ぶ。さらに、研究テーマの設定から研究計画書の作成といった過程のすすめ方について学ぶ。				看護研究入門	○	看護専門職者として、看護実践力を高めていく自己研鑽力を養い看護を探究するために、科学的な看護実践を目指し、文献を活用し計画的な調査や実験で得られた科学的根拠に基づいた研究成果を実践に活用するための基礎的能力を養う。看護研究の意義や方法、文献検討、論文クリティーク、人を対象とする研究の倫理、研究倫理にかかわる指針などについての基礎知識を学ぶ。さらに、研究のプロセスとして研究計画の立案と論文の構成について学ぶ。	
		略	略	略	略			略	略	略	
		看護の統合実習	○	各領域（基盤看護・臨床看護・子どもと家族の看護・地域看護）の実習で獲得してきた看護実践力をさらに高め、拡大することを目的に、学生自身が設定した課題に関する情報及び情報手段を主体的に選択し、収集活用し、意欲的に課題解決に向けた実習計画を立案し実習を行う。看護管理・安全管理、情報管理の視点を加え、これまで学習してきた知識や技能を統合・応用し、看護実践を行う。今後、ICTの活用が促進される保健医療福祉の領域で看護が担う役割を理解して、看護を主体的に実践できるよう自己の看護観を深める力を養う。	共同			看護の統合実習	○	各領域（基盤看護・臨床看護・子どもと家族の看護・地域看護）の実習で獲得してきた看護実践力をさらに高め、拡大することを目的に、学生自身が設定した課題にもとづき、実習を行う。課題に関連する内容について主体的に学習し自ら実習計画を作成する。そして、これまで学習してきた知識や技能を統合・応用しながら、看護実践を行う。これにより、自己の看護観に対する考察を深め、科学的思考に基づく洞察力と創造力をもって、看護を主体的に実践できる力を養う。	共同
		看護研究演習	○	自ら研究課題を発見するために、保健医療福祉分野の蓄積された情報を正しく読み解き活用して、看護研究テーマを決定する。さらに、情報手段を主体的に選択して、テーマ周辺の文献をICTを活用して広く収集・読み解き、研究計画書の立案、実施、結果の分析、考察、成果を記述する。その過程において、3つのリサーチリテラシーの力として①データを正確に分析する力②論理的に書く力、③研究成果を効果的に発表するためのプレゼンテーション能力を養う。特に、人を対象とする研究実践の場合は、人を対象とする研究の倫理指針に基づいて実践する。 (オムニバス方式/全30回) 以下略	オムニバス方式・共同（一部）			看護研究演習	○	看護学実習の経験を通して、自ら研究課題を発見するために、情報通信技術を正しく活用し文献検討を行い、看護研究テーマを決定する。さらに、テーマ周辺の看護文献レビューを行い、研究計画書の立案、実施、結果の分析、考察、成果をまとめる一連の研究プロセスについて実践を通して学ぶ。特に、人を対象とする研究実践の場合は、学部内で教員組織による倫理審査を行い、倫理的配慮を徹底する。研究発表会では、研究成果を効果的に発表するためのプレゼンテーション能力の基礎を養う。 (オムニバス方式/全30回) 以下略	オムニバス方式・共同（一部）
		情報通信技術と看護	○	保健医療福祉分野において発展し続ける情報通信技術（ICT）活用の現状を知り、看護における活用の在り方について学ぶ。具体的には「医療機関内」「地域連携医療」「日常生活圏での医療」「災害・救急現場」といった各フィールドで導入されるICTの実態について学ぶとともに、「看護情報学」での学びを基に、これからの保健医療福祉を担う看護専門職者として、看護の対象である人を中心としたICTの活用の拡大と看護専門職者が果たす役割について考察する。 (オムニバス方式/全8回) (⑤ 金岡 麻希/2回) 授業ガイダンス・医療福祉分野におけるICT、授業のまとめ (② 塚原 ひとみ/2回) 医療機関内におけるICTの実態①② (③ 大倉 美鶴/2回) 地域医療連携におけるICTの実態①② (⑥ 金田 浩太郎/1回) 災害・救急医療におけるICTの実態 (⑧ 原賀 美紀/1回) 日常生活圏におけるICTの実態	オムニバス方式			(追加)			
略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	略	

別添資料 8 看護研究入門

新

授業科目名		配当年次	開講学期	単位数	担当教員名
看護研究入門		3年	春	1	塚原 ひとみ
授業概要	看護実践力を高めていく自己研鑽力を養い看護を探究するために、保健医療福祉分野の蓄積された情報を正しく読み解き活用して、看護研究に必要な基礎的能力を養う。看護研究の意義や研究デザイン、情報及び情報手段を主体的に選択して文献データベースの活用による文献検索と文献検討、人を対象とする研究の倫理、研究倫理にかかわる指針などについての基礎知識を学ぶ。さらに、研究テーマの設定から研究計画書の作成といった過程のすすめ方について学ぶ。				
到達目標	1. 看護研究の目的や意義が理解できる。 2. 看護研究のプロセスが理解できる。 3. 文献データベースを活用した文献検索と文献検討が行える。 4. 研究計画書作成のプロセスの留意点を説明できる。	評価の方法と基準	「定期試験」80％ 「課題レポート」20％		
事前・事後学習	事前に提示するテキストの該当箇所や資料を読み、授業に参加すること。事後は授業での課題や内容の重要事項の整理を行うこと。				
学位授与方針	DP 2 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、適切な看護を実践するための基礎的知識を修得している。	◎			
	DP 6 自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。	○			
	DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。	◎			
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版	坂下玲子 他	医学書院eテキスト		2023年
参考書	かんたん看護研究 改定第2版	桂敏樹/星野明子	南江堂		2020年
	看護研究Step by Step 第6版	黒田裕子	医学書院		2023年
備考					

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス、看護研究とは	研究とは何か、看護研究・臨床看護研究における研究の意義と目的
2	看護研究のプロセス	研究疑問から研究課題へ 研究の実践、報告までのプロセス
3	研究デザインⅠ	量的研究デザインを中心とした研究手法の特徴、量的デザインのデータとは何か、研究方法と分析
4	研究デザインⅡ	質的研究デザインを中心とした研究手法の特徴、質的デザインのデータとは何か、研究方法と分析
5	研究と倫理	研究における倫理的配慮、人を対象とする研究の倫理指針
6	研究課題の明確化と研究デザインを選択するためのICTの活用	文献検索の意義と方法、研究で用いる文献データベースの活用
7	文献検討の実際	文献クリティークの実際
8	研究計画書作成のプロセス	研究疑問から研究実践に向けた一貫した研究計画書の作成プロセスと留意点

※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。

旧

授業科目名		配当年次	開講学期	単位数	担当教員名
看護研究入門		3年	春	1	塚原 ひとみ
授業概要	看護専門職者として、看護実践力を高めていく自己研鑽力を養い看護を探究するために、科学的な看護実践を目指し、文献を活用し計画的な調査や実験で得られた科学的根拠に基づいた研究成果を実践に活用するための基礎的能力を養う。看護研究の意義や方法、文献検討、論文クリティーク、人を対象とする研究の倫理、研究倫理にかかわる指針などについての基礎知識を学ぶ。さらに、研究のプロセスとして研究計画の立案と論文の構成について学ぶ。				
到達目標	1. 看護研究の目的や意義が理解できる。 2. 研究方法について理解できる。 3. 看護研究のプロセスが理解できる。 4. 研究論文を調べて、内容を理解し文献クリティークできる。 5. 研究計画書作成のプロセスを理解できる。	評価の方法と基準	「定期試験」80％ 「課題レポート」20％		
事前・事後学習	事前に提示するテキストの該当箇所や資料を読み、授業に参加すること。事後は授業での課題や内容の重要事項の整理を行うこと。				
学位授与方針	DP 2 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、適切な看護を実践するための基礎的知識を修得している。	◎			
	DP 6 自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。	○			
	DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。	◎			
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版	坂下玲子 他	医学書院eテキスト		2023年
参考書	かんたん看護研究 改定第2版	桂敏樹/星野明子	南江堂		2020年
	看護研究Step by Step 第6版	黒田裕子	医学書院		2023年
備考					

回	テーマ	授業スケジュール・内容
1	授業ガイダンス、看護研究とは	研究とは何か、看護研究・臨床看護研究における研究の意義と目的
2	看護研究のプロセス	研究疑問から研究課題へ 研究の実践、報告までのプロセス
3	研究デザインⅠ	量的研究デザインを中心とした研究手法の特徴、量的デザインのデータとは何か、研究方法と分析
4	研究デザインⅡ	質的研究デザインを中心とした研究手法の特徴、質的デザインのデータとは何か、研究方法と分析
5	研究と倫理	研究における倫理的配慮、人を対象とする研究の倫理指針
6	文献検索の意義と方法	研究で用いる文献、文献検索方法の実際
7	文献クリティーク	文献クリティークの実際
8	研究計画書の作成	研究疑問から研究実践に向けた一貫した研究計画書の作成プロセスと留意点

※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。

別添資料 9 看護の統合実習 新旧対照表

新					
授業科目名		配当年次	開講学期	単位数	担当教員名
看護の統合実習		4年	春	2	末永 陽子、中嶋 恵美子、塚原 ひとみ、大倉 美鶴、梶原 弘平、金岡 麻希、濱田 裕子、原賀 美紀、中島 充代、石村 美由紀、大谷 良子、佐藤 亜紀、古庄 夏香、吉田 恭子、衛藤 泰秀、鹿嶋 聡子、佐藤 繭子、道面 千恵子、服部 智子、政時 和美、吉川 未桜、中本 亮、河本 乃里
授業概要	各領域（基盤看護・臨床看護・子どもと家族の看護・地域看護）の実習で獲得してきた看護実践力をさらに高め、拡大することを目的に、学生自身が設定した課題に関する情報及び情報手段を主体的に選択し、収集活用し、意欲的に課題解決に向けた実習計画を立案し実習を行う。看護管理・安全管理、情報管理の視点を加え、これまで学習してきた知識や技能を統合・応用し、看護実践を行う。今後、ICT の活用が促進される保健医療福祉の領域で看護が担う役割を理解して、看護を主体的に実践できるよう自己の看護観を深める力を養う。				
到達目標	1.課題に関する情報及び情報手段を主体的に選択・収集活用し、意欲的に課題の探究に向けた実習を計画できる。 2.看護管理・安全管理の視点にもとづき、看護実践ができる。 3.看護実践の現場におけるICT活用の視点で看護師の役割を考察できる。 4.自己の看護実践力を振り返り、看護観を表現できる。	評価の方法と基準	到達目標に対する達成度を、実習状況・実習記録80%、課題レポート20%で評価する。		
事前・事後学習	事前学習：自己の看護課題解決、実習計画に関連する既習科目の資料や文献等の情報を的確に収集分析し実習に臨むこと。 事後学習：実習期間中は、当日の実習を振り返り、翌日の実習計画を立てる。				
学位授与方針	DP 3 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）に対して科学的根拠に基づき良質な看護が実践できる。 DP 4 保健医療福祉の場における看護専門職の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。 DP 5 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観・使命感に基づき行動できる。 DP 6 自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。 DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。 DP 8 地域の視点とグローバルな視点から看護を創造的に思考できる。	○ ○ ○ ◎ ○ ○			
教科書	既習の教科書すべて				
参考書	計画した実習に関連する書籍				
備考	保健福祉医療の場で看護師、助産師、保健師としての実務経験のある教員が行う授業です。				
週	授業スケジュール・内容				
1	1. 実習期間：2週間 2. 実習場所：各領域実習の全ての実習施設が対象 3. 実習計画： ①情報通信技術の基礎的知識と技術を活用し、自己の看護課題に関する先行研究等を用いて、課題解決に向けた実習計画の立案内容と看護実践の評価・考察をする。 ②実習内容は複数の患者の看護実践や専門領域の追求、一勤務帯を通した実習など自己の課題解決に向けて、実習場所と調整した上で実施可能な内容を計画する。 ③実習計画は看護管理・安全管理、ICT活用の視点を加えたものとし、保健医療福祉のチームの一員としての実習を計画する。 4. 実習方法：決定した実習領域・実習場所で個々の実習計画に沿って臨地実習を行う。				
1	【1週目】 1～4日目：臨地実習 ・立案した実習計画に沿って実習を行う。 5日目：学内実習 ・看護実践の振り返り・評価（看護の諸理論や文献を活用し実習を振り返る）、実習計画の見直し、記録の整理				

旧					
授業科目名		配当年次	開講学期	単位数	担当教員名
看護の統合実習		4年	春	2	河本 乃里、中嶋 恵美子、塚原 ひとみ、大倉 美鶴、梶原 弘平、金岡 麻希、濱田 裕子、原賀 美紀、上田 智之、石村 美由紀、大谷 良子、佐藤 亜紀、末永 陽子、古庄 夏香、吉田 恭子、衛藤 泰秀、鹿嶋 聡子、佐藤 繭子、道面 千恵子、服部 智子、政時 和美、吉川 未桜、中本 亮
授業概要	各領域（基盤看護・臨床看護・子どもと家族の看護・地域看護）の実習で獲得してきた看護実践力をさらに高め、拡大することを目的に、学生自身が設定した課題にもとづき、実習を行う。課題に関連する内容について主体的に学習し自ら実習計画を作成する。そして、これまで学習してきた知識や技能を統合・応用しながら、看護実践を行う。これにより、自己の看護観に対する考察を深め、科学的思考に基づく洞察力と創造力をもって、看護を主体的に実践できる力を養う。				
到達目標	1.自己の看護課題をあげ、その課題の解決・探究に向けた実習を計画できる。 2.既習の知識・技術・態度を統合し、科学的根拠に基づき主体的・創造的、かつ安全に看護を実践できる。 3.看護実践、評価・考察を通して、看護実践力と倫理観を高めていくことができる。 4.ケア実現のためのマネジメントができる。 5.実習を通して看護専門職としての今後の課題を明確にするとともに自己の看護観を表現することができる。	評価の方法と基準	到達目標に対する達成度を、実習状況・実習記録80%、課題レポート20%で評価する。		
事前・事後学習	事前学習：自己の看護課題解決、実習計画に関連する既習科目の資料や文献等を学習し実習に臨むこと。 事後学習：実習期間中は、当日の実習を振り返り、翌日の実習計画を立てる。				
学位授与方針	DP 3 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）に対して科学的根拠に基づき良質な看護が実践できる。 DP 4 保健医療福祉の場における看護専門職の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。 DP 5 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観・使命感に基づき行動できる。 DP 6 自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。 DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。 DP 8 地域の視点とグローバルな視点から看護を創造的に思考できる。	○ ○ ○ ◎ ○ ○			
教科書	既習の教科書すべて				
参考書	計画した実習に関連する書籍				
備考	保健福祉医療の場で看護師、助産師、保健師としての実務経験のある教員が行う授業です。				
週	授業スケジュール・内容				
1	1. 実習期間：2週間 2. 実習場所：各領域実習の全ての実習施設が対象 3. 実習計画：実習内容は複数の患者の看護実践や専門領域の追求、一勤務帯を通した実習など自己の看護課題解決に向けて、実習場所と調整した上で実施可能な内容を計画する。また、実習計画は看護管理・安全管理の視点を加えたものとし、保健医療福祉のチームの一員として実習を計画する。 4. 実習方法：決定した実習領域・実習場所で個々の実習計画に沿って臨地実習を行う。				
1	【1週目】 1～4日目：臨地実習 ・立案した実習計画に沿って実習を行う。 5日目：学内実習 ・看護実践の振り返り・評価（看護の諸理論や文献を活用し実習を振り返る）、実習計画の見直し、記録の整理				

	2	【2週目】 6～8日目：臨地実習 ・1週目の看護実践の振り返り・評価をもとに自己の計画に沿って看護を展開する。 9日目：臨地実習 ・自己の看護実践の評価・考察、今後の課題についてカンファレンスで発表する。 10日目：学内実習 ・実習を振り返り、設定した課題に沿って自己の看護実践を評価・考察する。 ・実習の振り返り・評価・考察から、今後の課題や目標、看護観をまとめる。 ※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。	
	2	【2週目】 6～8日目：臨地実習 ・1週目の看護実践の振り返り・評価をもとに自己の計画に沿って看護を展開する。 9日目：臨地実習 ・自己の看護実践の評価・考察、今後の課題についてカンファレンスで発表する。 10日目：学内実習 ・実習を振り返り、設定した課題に沿って自己の看護実践を評価・考察する。 ・実習の振り返り・評価・考察から、今後の課題や目標、看護観をまとめる。 ※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。	

別添資料 10 看護研究演習 新旧対照表

新					旧							
授業科目名		配当年次	開講学期	単位数	授業科目名		配当年次	開講学期	単位数	担当教員名		
看護研究演習		4年	通年	2	看護研究演習		4年	通年	2	塚原 ひとみ、中嶋 恵美子、大倉美鶴、梶原 弘平、金岡 麻希、金田 浩太郎、瀧田 裕子、原賀 美紀、 <u>中島 充代</u> 、石村 美由紀、大谷 良子、佐藤 亜紀、末永 陽子、古庄 夏香、吉田 恭子、衛藤 泰秀、鹿嶋 聡子、佐藤 繭子、柴崎卓己子、道面 千恵子、服部 智子、政時 和美、吉川 未桜、中本 亮		
授業概要	自ら研究課題を発見するために、保健医療福祉分野の蓄積された情報を正しく読み解き活用して、看護研究テーマを決定する。さらに、情報手段を主体的に選択して、テーマ周辺の文献をICTを活用して広く収集・読み解き、研究計画書の立案、実施、結果の分析、考察、成果を記述する。その過程において、3つのリサーチリテラシーの力として①データを正確に分析する力②論理的に書く力、③研究成果を効果的に発表するためのプレゼンテーション能力を養う。特に、人を対象とする研究実践の場合は、人を対象とする研究の倫理指針に基づいて実践する。											
	到達目標	1. 情報収集手段を選択して、テーマ周辺の文献をICTを活用して広く収集し読み解き、自己の研究テーマを明確化できる。 2. 研究テーマに沿った研究デザインを選択し、研究計画書を作成することができる。 3. 研究を実践することができる。 4. 研究実践のデータを正しく分析し、抄録、論文を作成できる。 5. 研究内容を的確に周知できる資料を作成し発表できる。			評価の方法と基準	「研究計画書の作成」30％ 「研究論文・研究抄録の作成」30％ 「研究成果の報告」20％ 「研究発表会の発表」20％			到達目標	1. 文献を検討し、自己の研究テーマを明確化できる。 2. 自己の研究テーマを科学的に探求するための方法を具体的に示すことができる。 3. 研究を実施にあたって必要な倫理的配慮を述べることができる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 研究を実践することができる。 6. 抄録、論文を作成できる。 7. 研究発表の資料を作成し発表できる。		
	事後学習	事前事後の学習時間を有効に活用し主体的に学習を進めること。研究テーマの探索のための文献の検索、研究計画書の作成、論文の作成、研究実施のための調整、研究発表準備など指導教員の指導を受け、自主的に進めること。										
学位授与方針	DP 2	看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、適切な看護を実践するための基礎的知識を修得している。						○				
	DP 5	人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観・使命感に基づき行動できる。						○				
	DP 6	自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。						○				
	DP 7	情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。						◎				
	DP 8	地域の視点とグローバルな視点から看護を創造的に思考できる。						○				
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版		坂下玲子 他		医学書院 e テキスト		2023年					
参考書	かんたん看護研究 改定第2版		桂敏樹/星野明子		南江堂		2020年					
	看護研究Step by Step 第6版		黒田裕子		医学書院		2023年					
備考												
回	テーマ	授業スケジュール・内容										
1	研究の進め方ガイダンス1	看護研究についてのガイダンスおよびシラバスの説明（塚原） 研究テーマの探索、研究計画書の構成要素、倫理的配慮について										
2	研究の進め方ガイダンス2	看護研究ゼミ、看護研究実践時の留意点、成績評価について（塚原）										
3	看護研究ゼミ1	3回目～14回目講師以上教員全員が3～4名の学生をグループ、個人指導（全員） 指導教員の支援を受け、個々の課題に基づき、研究テーマを明確化し、研究デザインを決定するにあたり、情報手段を主体的に選択して、テーマ周辺の文献をICTを活用して広く収集・読み解き、実践可能な研究計画書を立案する。										
4	看護研究ゼミ2											
5	看護研究ゼミ3											
6	看護研究ゼミ4											
7	看護研究ゼミ5											
8	看護研究ゼミ6											
9	看護研究ゼミ7											
10	看護研究ゼミ8											
11	看護研究ゼミ9											
12	看護研究ゼミ10											
13	看護研究ゼミ11											
14	看護研究ゼミ12											

授業概要	看護学実習の経験を通して、自ら研究課題を発見するために、情報通信技術を正しく活用し文献検討を行い、看護研究テーマを決定する。さらに、テーマ周辺の看護文献レビューを行い、研究計画書の立案、実施、結果の分析、考察、成果を主とめる一連の研究プロセスについて実践を通して学ぶ。特に、人を対象とする研究実践の場合は、学部内で教員組織による倫理審査を行い、倫理的配慮を徹底する。研究発表会では、研究成果を効果的に発表するためのプレゼンテーション能力の基礎を養う。											
	到達目標	1. 文献を検討し、自己の研究テーマを明確化できる。 2. 自己の研究テーマを科学的に探求するための方法を具体的に示すことができる。 3. 研究を実施にあたって必要な倫理的配慮を述べることができる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 研究を実践することができる。 6. 抄録、論文を作成できる。 7. 研究発表の資料を作成し発表できる。			評価の方法と基準	「研究計画書の作成」30％ 「研究論文・研究抄録の作成」30％ 「研究成果の報告」20％ 「研究発表会の発表」20％			到達目標	1. 文献を検討し、自己の研究テーマを明確化できる。 2. 自己の研究テーマを科学的に探求するための方法を具体的に示すことができる。 3. 研究を実施にあたって必要な倫理的配慮を述べることができる。 4. 研究計画書を作成することができる。 5. 研究を実践することができる。 6. 抄録、論文を作成できる。 7. 研究発表の資料を作成し発表できる。		
	事後学習	事前事後の学習時間を有効に活用し主体的に学習を進めること。研究テーマの探索のための文献の検索、研究計画書の作成、論文の作成、研究実施のための調整、研究発表準備など指導教員の指導を受け、自主的に進めること。										
学位授与方針	DP 2	看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、適切な看護を実践するための基礎的知識を修得している。						○				
	DP 5	人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観・使命感に基づき行動できる。						○				
	DP 6	自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。						○				
	DP 7	情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。						◎				
	DP 8	地域の視点とグローバルな視点から看護を創造的に思考できる。						○				
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版		坂下玲子 他		医学書院 e テキスト		2023年					
参考書	かんたん看護研究 改定第2版		桂敏樹/星野明子		南江堂		2020年					
	看護研究Step by Step 第6版		黒田裕子		医学書院		2023年					
備考												
回	テーマ	授業スケジュール・内容										
1	研究の進め方ガイダンス1	看護研究についてのガイダンスおよびシラバスの説明（塚原） 研究テーマの探索、研究計画書の構成要素、倫理的配慮について										
2	研究の進め方ガイダンス2	看護研究ゼミ、看護研究実践時の留意点、成績評価について（塚原）										
3	看護研究ゼミ1	3回目～14回目講師以上教員全員が3～4名の学生をグループ、個人指導（全員） 指導教員の支援を受け、個々の課題に基づき、研究テーマを明確化し、研究デザインを決定し、実践可能な研究計画書を立案										
4	看護研究ゼミ2											
5	看護研究ゼミ3											
6	看護研究ゼミ4											
7	看護研究ゼミ5											
8	看護研究ゼミ6											
9	看護研究ゼミ7											
10	看護研究ゼミ8											
11	看護研究ゼミ9											
12	看護研究ゼミ10											
13	看護研究ゼミ11											
14	看護研究ゼミ12											

15	看護研究ゼミ13	研究計画書を指導教員へ最終提出と研究実施準備（全員）	15	看護研究ゼミ13	研究計画書を指導教員へ最終提出と研究実施準備（全員）
16	抄録・論文作成と発表会ガイダンス	抄録・論文作成と発表会準備と運営についてのガイダンス（塚原）	16	抄録・論文作成と発表会ガイダンス	抄録・論文作成と発表会準備と運営についてのガイダンス（塚原）
17	看護研究ゼミ14	17回目～27回目講師以上教員全員が3～4名の学生をグループ、個人指導（全員）指導教員の支援を受け作成した研究計画書に基づき、研究の実践、結果の分析、論文・抄録の作成、研究発表会準備を行う。 <u>得られたデータの分析、考察にあたっては、インターネットを通しての情報収集や検索データベースを用いて既存の文献を正確に活用する。</u>	17	看護研究ゼミ14	17回目～27回目講師以上教員全員が3～4名の学生をグループ、個人指導（全員）指導教員の支援を受け作成した研究計画書に基づき、研究の実践、結果の分析、論文・抄録の作成、研究発表会準備を行う。
18	看護研究ゼミ15		18	看護研究ゼミ15	
19	看護研究ゼミ16		19	看護研究ゼミ16	
20	看護研究ゼミ17		20	看護研究ゼミ17	
21	看護研究ゼミ18		21	看護研究ゼミ18	
22	看護研究ゼミ19		22	看護研究ゼミ19	
23	看護研究ゼミ20		23	看護研究ゼミ20	
24	看護研究ゼミ21		24	看護研究ゼミ21	
25	看護研究ゼミ22		25	看護研究ゼミ22	
26	看護研究ゼミ23	研究発表会運営、全体資料準備、発表資料の投影確認（塚原）	26	看護研究ゼミ23	研究発表会運営、全体資料準備、発表資料の投影確認（塚原）
27	看護研究ゼミ24		27	看護研究ゼミ24	
28	研究発表会準備		28	研究発表会準備	
29	看護研究発表会1	学生主体による「研究発表会の実施運営」（全員）	29	看護研究発表会1	学生主体による「研究発表会の実施運営」（全員）
30	看護研究発表会2	看護研究発表会で学生個々が研究発表を行う。	30	看護研究発表会2	看護研究発表会で学生個々が研究発表を行う。
※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。			※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。		

別添資料 11 情報通信技術と看護

新					旧				
情報通信技術と看護					(追加)				
授業概要	保健医療福祉分野において発展し続ける情報通信技術（ICT）活用の現状を知り、看護における活用の在り方について学ぶ。 具体的には「医療機関内」「地域連携医療」「日常生活圏での医療」「災害・救急現場」といった各フィールドで導入されるICTの実際について学ぶとともに、「看護情報学Ⅰ」での学びを基に、これからの保健医療福祉を担う看護専門職者として、看護の対象である人を中心としたICTの利活用の拡大と看護専門職者が果たす役割について考察する。								
	到達目標		1. 保健医療福祉分野におけるICT利活用の効果について説明できる 2. 保健医療福祉の各フィールドにおけるICTの活用の実 際を説明できる。 3. 医療・看護におけるICT利活用の拡大に伴い看護が果 たす役割を説明できる。	評価の方法 と基準	「定期試験」60％ 「課題レポート」40％				
事前・事後学習	事前課題：授業の進度に沿って、提示する講義資料を読むこと。 事後課題：各回のレジュメの内容および授業内容を確認しておくこと。疑問点があれば次回の授業時に質問すること。								
学位授与方針	DP 4 保健医療福祉の場における看護専門職の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。				○				
	DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。				◎				
教科書	系統看護学講座 別巻 看護情報学		中山和弘 ほか		医学書院eテキスト		2021年		
参考書									
備考									
回	テーマ		授業スケジュール・内容						
1	授業ガイダンス 医療福祉分野におけるICT		授業ガイダンス 保健医療福祉分野におけるICTの発展と活用により期待される効果（医療の質向上・業務の効率化・安全性向上・患者サービス向上）（金岡）						
2	医療機関内におけるICTの 実際①		統合型医療情報システムと看護の視点から見た運用（塚原）						
3	医療機関内におけるICTの 実際②		医療機関内の情報システムと看護：医療従事者・患者情報管理システム、看護業務記録・分析システム、服薬支援システム（塚原）						
4	地域医療連携におけるICT の実際①		地域医療連携支援システムによる「切れ目のない」医療と看護（大倉）						
5	地域医療連携におけるICT の実際②		遠隔診断支援システム、診療情報閲覧システムによる地域の医療提供体制の変化と遠隔看護（大倉）						
6	日常生活圏におけるICTの 実際		健康生活を支える情報通信技術（在宅健康管理支援システムなど）と看護（原賀）						
7	災害・救急医療における ICTの実際		災害時や救急医療におけるICT活用がもたらす効果（広域災害・救急医療情報システム、救急患者対応支援・患者特定システム）（金田）						
8	授業のまとめ		医療・看護におけるICT活用の拡大と看護が果たす役割（金岡）						
※日程や講義内容は、変更となる可能性があります。									

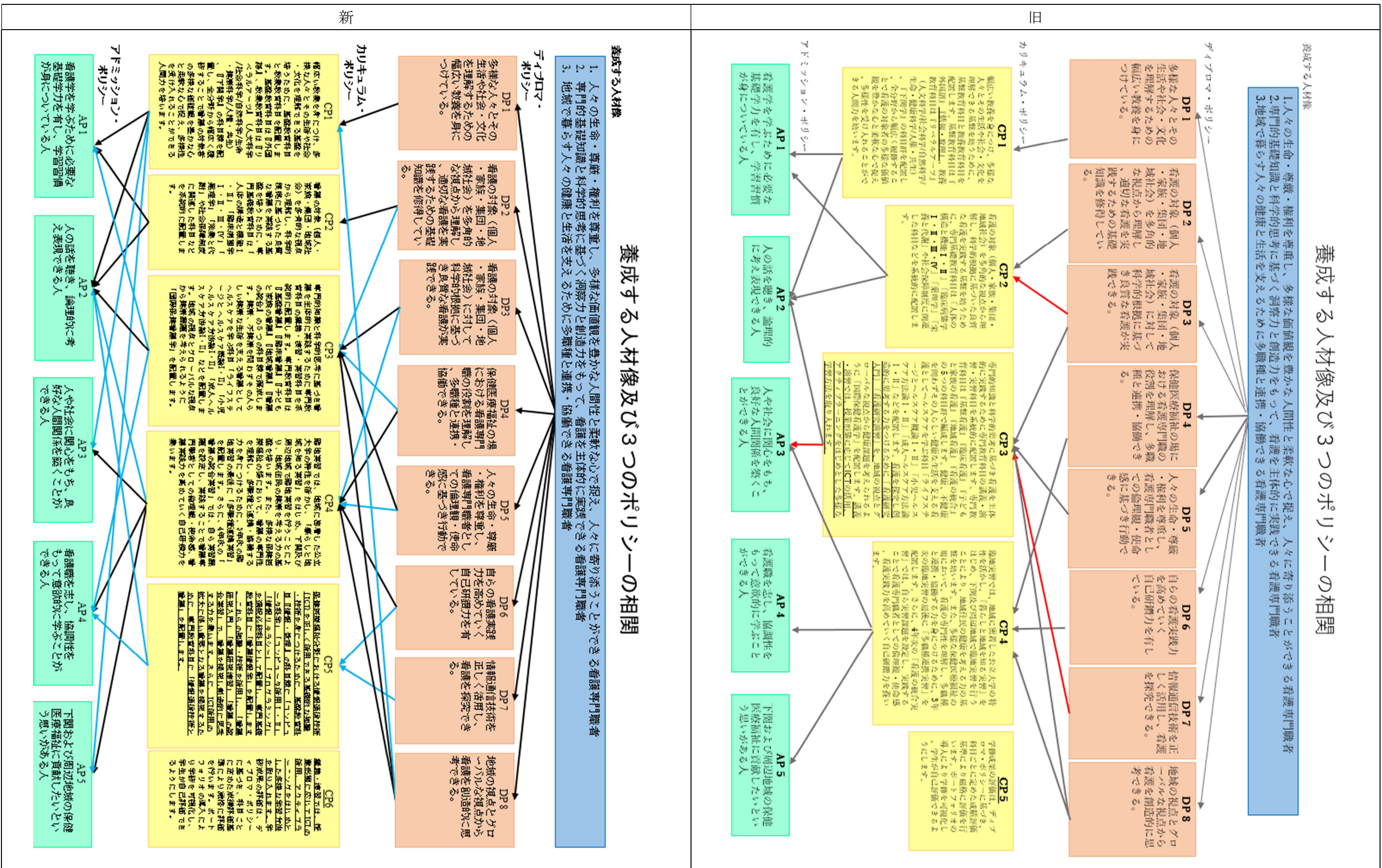
別添資料12

＜主要授業科目とディプロマ・ポリシーの相関表＞

新											旧										
科目区分	科目名	配当年次	ディプロマ・ポリシー								科目区分	科目名	配当年次	ディプロマ・ポリシー							
			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8				DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
専門基礎教育	スタートアップゼミ	1前					○	◎			専門基礎教育	スタートアップゼミ	1前					○	◎		
	人体の構造と機能Ⅰ	1前		◎								看護情報学	1前		◎					○	
	公衆衛生学	1前		◎						○ ○		人体の構造と機能Ⅰ	1前		◎						
	人体の構造と機能Ⅱ	1後		◎								公衆衛生学	1前		◎					○ ○	
	薬理学	1後		◎								人体の構造と機能Ⅱ	1後		◎						
	栄養と代謝	1後		◎								薬理学	1後		◎						
	臨床病態学Ⅰ	1後		◎								栄養と代謝	1後		◎						
	臨床病態学Ⅱ	1後		◎								臨床病態学Ⅰ	1後		◎						
	看護情報学	2前		○						◎		臨床病態学Ⅱ	1後		◎						
	臨床病態学Ⅲ	2前		◎								臨床病態学Ⅲ	2前		◎						
	臨床病態学Ⅳ	2前		◎								臨床病態学Ⅳ	2前		◎						
	保健医療福祉行政論	2後		◎						○		保健医療福祉行政論	2後		◎						○
	多職種連携論	2後		○		◎				○		多職種連携論	2後		○		◎				
基盤看護 臨床看護	看護学概論	1前		◎		○	○			○ ○	基盤看護 臨床看護	看護学概論	1前		◎			○			○ ○
	生活援助技術	1後		○	◎		○					生活援助技術	1後		○	◎		○			
	ヘルスアセスメント	2前		○	◎		○					ヘルスアセスメント	2前		○	◎		○			
	看護過程	2前		◎	○		○					看護過程	2前		◎	○		○			
	看護倫理	2前		○			◎					看護倫理	2前		○			◎			
	基礎看護学実習Ⅰ	2前		○	◎	○	○	○				基礎看護学実習Ⅰ	2前		○	◎	○	○	○		
	診療援助技術	2後		○	◎		○					診療援助技術	2後		○	◎		○			
	基礎看護学実習Ⅱ	2後		○	◎	○	○	○				基礎看護学実習Ⅱ	2後		○	◎	○	○	○		
	総合看護技術演習	3前		○	◎		○	○				総合看護技術演習	3前		○	◎		○	○		
	ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ	2前		◎		○	○			○ ○		ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ	2前		◎			○			○ ○
	老年ヘルスケア方法論Ⅰ	2前		◎	○		○			○		老年ヘルスケア方法論Ⅰ	2前		◎	○		○			○
	成人ヘルスケア方法論Ⅰ	2後		◎	○		○					成人ヘルスケア方法論Ⅰ	2後		◎	○		○			
	老年ヘルスケア方法論Ⅱ	2後		◎	○		○					老年ヘルスケア方法論Ⅱ	2後		◎	○		○			
	成人ヘルスケア方法論Ⅱ	3前		◎	○		○					成人ヘルスケア方法論Ⅱ	3前		◎	○		○			
	成人ヘルスケア実習Ⅰ	3後		○	◎	○	○	○				成人ヘルスケア実習Ⅰ	3後		○	◎	○	○	○		

専門教育		成人ヘルスケア実習Ⅱ	3後		○	◎	○	○	○		
		老年ヘルスケア実習Ⅰ	3後		○	◎	○	○	○		
		老年ヘルスケア実習Ⅱ	3後		○	◎	○	○	○		
		がん看護	4後		◎		○	○			
	子どもと家族の看護	ライフステージとヘルスケア概論Ⅱ	2前		◎		○		○	○	
		小児ヘルスケア方法論Ⅰ	2後		◎	○		○		○	
		ウイメンズヘルスケア方法論Ⅰ	2後		◎	○		○		○	
		小児ヘルスケア方法論Ⅱ	3前		◎	○		○			
		ウイメンズヘルスケア方法論Ⅱ	3前		◎	○		○			
		小児ヘルスケア実習	3後		○	◎	○	○	○		
		ウイメンズヘルスケア実習	3後		○	◎	○	○	○		
		家族看護学	4後		◎			○			
	地域看護	暮らしと地域を知る実習	1後		○			○		○	◎
		精神ヘルスケア概論	2前		◎		○		○	○	
		地域・在宅ヘルスケア概論	2前		◎		○		○	○	
		公衆衛生看護学概論	2前		◎		○		○	○	
		精神ヘルスケア方法論Ⅰ	2後		◎	○		○		○	
		地域・在宅ヘルスケア方法論Ⅰ	2後		◎	○		○		○	○
		精神ヘルスケア方法論Ⅱ	3前		◎	○		○		○	
		地域・在宅ヘルスケア方法論Ⅱ	3前		◎	○		○			○
		精神ヘルスケア実習	3後		○	◎	○	○	○		○
		地域・在宅ヘルスケア実習	4前		○	◎	○	○	○	○	○
	看護の統合	看護管理と医療安全	2後		○		◎	○			
		看護研究入門	3前		○				○	◎	
		多職種連携実習	3後		○	○	◎	○	○	○	○
		看護の統合実習	4前			○	○	○	◎	○	○
		看護研究演習	4通		○			○	○	◎	○
		情報通信技術と看護	4後				○		○	◎	
		災害看護	4後		○	○	◎				○
		国際保健看護学	4後		○						◎

		成人ヘルスケア実習Ⅱ	3後		○	◎	○	○	○		
		老年ヘルスケア実習Ⅰ	3後		○	◎	○	○	○		
		老年ヘルスケア実習Ⅱ	3後		○	◎	○	○	○		
		がん看護	4後		◎		○	○			
	子どもと家族の看護	ライフステージとヘルスケア概論Ⅱ	2前		◎			○		○	○
		小児ヘルスケア方法論Ⅰ	2後		◎	○		○		○	
		ウイメンズヘルスケア方法論Ⅰ	2後		◎	○		○		○	
		小児ヘルスケア方法論Ⅱ	3前		◎	○		○			
		ウイメンズヘルスケア方法論Ⅱ	3前		◎	○		○			
		小児ヘルスケア実習	3後		○	◎	○	○	○		
		ウイメンズヘルスケア実習	3後		○	◎	○	○	○		
		家族看護学	4後		◎			○			
	地域看護	暮らしと地域を知る実習	1後		○			○		○	◎
		精神ヘルスケア概論	2前		◎			○			
		地域・在宅ヘルスケア概論	2前		◎			○			
		公衆衛生看護学概論	2前		◎			○		○	○
		精神ヘルスケア方法論Ⅰ	2後		◎	○		○		○	
		地域・在宅ヘルスケア方法論Ⅰ	2後		◎	○		○		○	○
		精神ヘルスケア方法論Ⅱ	3前		◎	○		○		○	
		地域・在宅ヘルスケア方法論Ⅱ	3前		◎	○		○			○
		精神ヘルスケア実習	3後		○	◎	○	○	○		
		地域・在宅ヘルスケア実習	4前		○	◎	○	○	○		○
	看護の統合	看護管理と医療安全	2後		○		◎	○			
		看護研究入門	3前		◎				○	○	
		多職種連携実習	3後		○	○	◎	○	○		○
		看護の統合実習	4前			○	○	○	◎	○	○
		看護研究演習	4通		○			○	○	◎	○
		災害看護	4後		○	○	◎				○
		国際保健看護学	4後		○						◎



: 削除
: 追加

別添資料14 看護学部 カリキュラムマップ

新

カリキュラムマップ

DP 1 多様な人々とその生活や社会・文化を理解するための幅広い教養を身につけている。

DP 2 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、適切な看護を実践するための基礎知識を修得している。

DP 3 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）に対して科学的根拠に基づき良質な看護が実践できる。

DP 4 保健医療福祉の場における看護専門職の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。

DP 5 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観・使命感に基づき行動できる。

DP 6 自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。

DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。

DP 8 地域の視点とグローバルな視点から看護を創造的に思考できる。

							ディプロマ・ポリシー							
区 分	主要 授業 科目	授業科目	配当 年次	単位数		1単位 当たり の時間 数	知識・ 理解		汎用性 技能		態度・ 志向性		統合的学 習経験と 創造的思 考	
							DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
				必修	選択									
基盤教育	外国語	英語Ⅰa	1前	2		15	◎							○
		英語Ⅰb	1前	2		15	◎							○
		中国語L	1前		2	15	◎							○
		韓国語L	1前		2	15	◎							○
		ドイツ語L	1前		2	15	◎							○
		フランス語L	1前		2	15	◎							○
		英語Ⅰc	1後	2		15	◎							○
		英語Ⅰd	1後	2		15	◎							○
		中国語M	1後		2	15	◎							○
		韓国語M	1後		2	15	◎							○
		ドイツ語M	1後		2	15	◎							○
		フランス語M	1後		2	15	◎							○
	情報・数理	英語Ⅱa	2前	2	15	◎								○
		英語Ⅱb	2前	2	15	◎								○
		英語Ⅱc	2後	2	15	◎								○
		英語Ⅱd	2後	2	15	◎								○
		コンピュータ科学	1前		2	15	㊦						㊦	
		数学入門	1前		2	15	◎							
		統計入門	1前		2	15	◎						○	
		コンピュータ活用Ⅰ	1後		2	15	㊦						㊦	
	初年次 教育	情報リテラシー	1後		2	15	㊦						㊦	
		コンピュータ活用Ⅱ	2前		2	15	㊦						㊦	
	人文科学	プログラミング	2前		2	15	㊦						㊦	
		メディア論	2前		2	15	◎							
		アカデミックリテラシー	1前		1	15	◎						○	
		基礎演習	1後		2	15	◎						○	
		倫理	1前		2	15	◎							
		文学	1前		2	15	◎							
		芸術	1前		2	15	◎							
		心理学概論	1前		2	15	◎							
		日本史概論	1前		2	15	◎							
		西洋史概論	1前		2	15	◎							
		人文地理学概論	1前		2	15	◎							
	哲学概論	1後		2	15	◎								
東洋史概論	1後		2	15	◎									
社会	1前		2	15	◎									

旧

カリキュラムマップ

DP 1 多様な人々とその生活や社会・文化を理解するための幅広い教養を身につけている。

DP 2 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）を多角的な視点から理解し、適切な看護を実践するための基礎知識を修得している。

DP 3 看護の対象（個人・家族・集団・地域社会）に対して科学的根拠に基づき良質な看護が実践できる。

DP 4 保健医療福祉の場における看護専門職の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。

DP 5 人々の生命・尊厳・権利を尊重し、看護専門職者としての倫理観・使命感に基づき行動できる。

DP 6 自らの看護実践力を高めていく自己研鑽力を有している。

DP 7 情報通信技術を正しく活用し、看護を探究できる。

DP 8 地域の視点とグローバルな視点から看護を創造的に思考できる。

							ディプロマ・ポリシー							
区 分	主要 授業 科目	授業科目	配当 年次	単位数		1単位 当たり の時間 数	知識・ 理解		汎用性 技能		態度・ 志向性		統合的学 習経験と 創造的思 考	
							DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
				必修	選択									
基盤教育	外国語	英語Ⅰa	1前	2		15	◎							○
		英語Ⅰb	1前	2		15	◎							○
		中国語L	1前		2	15	◎							○
		韓国語L	1前		2	15	◎							○
		ドイツ語L	1前		2	15	◎							○
		フランス語L	1前		2	15	◎							○
		英語Ⅰc	1後	2		15	◎							○
		英語Ⅰd	1後	2		15	◎							○
		中国語M	1後		2	15	◎							○
		韓国語M	1後		2	15	◎							○
		ドイツ語M	1後		2	15	◎							○
		フランス語M	1後		2	15	◎							○
	情報・数理	英語Ⅱa	2前	2	15	◎								○
		英語Ⅱb	2前	2	15	◎								○
		英語Ⅱc	2後	2	15	◎								○
		英語Ⅱd	2後	2	15	◎								○
		コンピュータ科学	1前		2	15	㊦						㊦	
		数学入門	1前		2	15	◎							
		統計入門	1前		2	15	◎						○	
		コンピュータ活用Ⅰ	1後		2	15	㊦						㊦	
	初年次 教育	情報リテラシー	1後		2	15	㊦						㊦	
		コンピュータ活用Ⅱ	2前		2	15	㊦						㊦	
	人文科学	プログラミング	2前		2	15	㊦						㊦	
		メディア論	2前		2	15	◎							
		アカデミックリテラシー	1前		1	15	◎						○	
		基礎演習	1後		2	15	◎						○	
		倫理	1前		2	15	◎							
		文学	1前		2	15	◎							
		芸術	1前		2	15	◎							
		心理学概論	1前		2	15	◎							
		日本史概論	1前		2	15	◎							
		西洋史概論	1前		2	15	◎							
		人文地理学概論	1前		2	15	◎							
	哲学概論	1後		2	15	◎								
東洋史概論	1後		2	15	◎									
社会	1前		2	15	◎									

リベラルアーツ 教養教育	社会科学		生命保険概論	1前		2	15	◎												
			経営学	1前		2	15	◎												
			経済学	1前		2	15	◎												
			政治	1後		2	15	◎												
			アントレプレナーシップ	1後		2	15	◎												
			教育学	1後		2	15	◎												
	自然科学		自然の法則	1前		2	15	◎												
			生命と生態	1前		2	15	◎												
			教養統計	1前		2	15	◎												
			人間と物質	1後		2	15	◎												
			宇宙と地球	1後		2	15	◎												
			科学技術史	1後		2	15	◎												
			自然地理学概論	1後		2	15	◎												
			教養数学	1後		2	15	◎												
	生命・健康科学		健康と運動	1前		2	15	◎												
			健康と生活習慣	1前		2	15	◎												
			スポーツ実践A	1前		1	30	◎												
			健康と栄養	1後		2	15	◎												
			脳と認知	1後		2	15	◎												
			スポーツ実践B	1後		1	30	◎												
	人権・共生		福祉	1前		2	15	◎												
			日本国憲法	1前		2	15	◎												
			ダイバーシティ	1前		2	15	◎												
			異文化交流	1前		2	15	◎												
			人権	1後		2	15	◎												
			法学総論	1後		2	15	◎												
			多様性と障害理解	1後		2	15	◎												
			多文化共生	1後		2	15	◎												
	下関学		下関の産業とみらい	1前		2	15	○												◎
			下関の観光	1後		2	15	○												◎
		P B L	1後		2	30	○												◎	
キャリア教育		キャリアデザインA	1前		1	15	◎													
		キャリアデザインB	1後		2	15	◎													
		キャリアデザインC	2後		2	15	◎													
外国研修		外国研修（英語）	1後・2前		2	45	○												◎	
		外国研修（中国語）	1後・2前		2	45	○												◎	
		外国研修（韓国語）	1後・2前		2	45	○												◎	

リベラルアーツ 教養教育	社会科学	生命保険概論	1前	2	15	◎																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
-----------------	------	--------	----	---	----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

	専門基礎教育	○	スタートアップゼミ	1前	1		30					○	◎				
		○	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2		15		◎								
		○	公衆衛生学	1前	2		15		◎					○	○		
		○	人体の構造と機能Ⅱ	1後	2		15		◎								
		○	薬理学	1後	2		15		◎								
		○	栄養と代謝	1後	2		15		◎								
		○	臨床病態学Ⅰ	1後	2		15		◎								
		○	臨床病態学Ⅱ	1後	2		15		◎								
		○	看護情報学	2前	1		30		○					◎			
		○	臨床病態学Ⅲ	2前	2		15		◎								
		○	臨床病態学Ⅳ	2前	2		15		◎								
		○	保健医療福祉行政論	2後	2		15		◎							○	
		○	多職種連携論	2後	1		30		○		◎			○			
			疫学・保健統計	3前		2	15		◎					○	○		
	基盤看護	○	看護学概論	1前	2		15		◎		○			○	○		
			コミュニケーション論※	1前		1	15		◎			○					
			ケアリング※	1前		1	15		◎			○					
		○	生活援助技術	1後	2		30		○	◎		○					
			ヘルスプロモーション※	1後		1	15		◎							○	
			ナーシングキャリアデザイン※	1後		1	15		○			○	◎				
		○	ヘルスアセスメント	2前	2		30		○	◎		○					
		○	看護過程	2前	1		30		◎	○		○					
		○	看護倫理	2前	1		15		○			◎					
		○	基礎看護学実習Ⅰ	2前	1		45		○	◎	○	○	○				
		○	診療援助技術	2後	2		30		○	◎		○					
		○	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2		45		○	◎	○	○	○				
		○	総合看護技術演習	3前	1		30		○	◎		○	○				
			看護理論※	4後		1	15		◎				○				
	臨床看護	○	ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ	2前	2		15		◎		○			○	○		
		○	老年ヘルスケア方法論Ⅰ	2前	1		30		◎	○		○		○			
		○	成人ヘルスケア方法論Ⅰ	2後	2		30		◎	○		○					
		○	老年ヘルスケア方法論Ⅱ	2後	2		30		◎	○		○					
		○	成人ヘルスケア方法論Ⅱ	3前	2		30		◎	○		○					
		○	成人ヘルスケア実習Ⅰ	3後	2		45		○	◎	○	○	○				
		○	成人ヘルスケア実習Ⅱ	3後	2		45		○	◎	○	○	○				
		○	老年ヘルスケア実習Ⅰ	3後	2		45		○	◎	○	○	○				
		○	老年ヘルスケア実習Ⅱ	3後	2		45		○	◎	○	○	○				
		○	がん看護	4後	1		15		◎		○	○					
			リハビリテーション看護※	4後		1	15		◎		○	○					
			エンドオブライフケア※	4後		1	15		◎		○	○					
			救急看護※	4後		1	15		◎		○	○					
			感染看護※	4後		1	15		◎		○	○					
	専門基礎教育	○	スタートアップゼミ	1前	1		30						○	◎			
		○	看護情報学	1前	1		30		◎						○		
		○	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2		15		◎								
		○	公衆衛生学	1前	2		15		◎						○	○	
		○	人体の構造と機能Ⅱ	1後	2		15		◎								
		○	薬理学	1後	2		15		◎								
		○	栄養と代謝	1後	2		15		◎								
		○	臨床病態学Ⅰ	1後	2		15		◎								
		○	臨床病態学Ⅱ	1後	2		15		◎								
		○	臨床病態学Ⅲ	2前	2		15		◎								
		○	臨床病態学Ⅳ	2前	2		15		◎								
		○	保健医療福祉行政論	2後	2		15		◎							○	
		○	多職種連携論	2後	1		30		○		◎						
			疫学・保健統計	3前		2	15		◎						○	○	
	基盤看護	○	看護学概論	1前	2		15		◎			○			○	○	
			コミュニケーション論※	1前		1	15		◎			○					
			ケアリング※	1前		1	15		◎			○					
		○	生活援助技術	1後	2		30		○	◎		○					
			ヘルスプロモーション※	1後		1	15		◎							○	
			ナーシングキャリアデザイン※	1後		1	15		○			○	◎				
		○	ヘルスアセスメント	2前	2		30		○	◎		○					
		○	看護過程	2前	1		30		◎	○		○					
		○	看護倫理	2前	1		15		○			◎					
		○	基礎看護学実習Ⅰ	2前	1		45		○	◎	○	○	○				
		○	診療援助技術	2後	2		30		○	◎		○					
		○	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2		45		○	◎	○	○	○				
		○	総合看護技術演習	3前	1		30		○	◎		○	○				
			看護理論※	4後		1	15		◎				○				
	臨床看護	○	ライフステージとヘルスケア概論Ⅰ	2前	2		15		◎			○			○	○	
		○	老年ヘルスケア方法論Ⅰ	2前	1		30		◎	○		○			○		
		○	成人ヘルスケア方法論Ⅰ	2後	2		30		◎	○		○					
		○	老年ヘルスケア方法論Ⅱ	2後	2		30		◎	○		○					
		○	成人ヘルスケア方法論Ⅱ	3前	2		30		◎	○		○					
		○	成人ヘルスケア実習Ⅰ	3後	2		45		○	◎	○	○	○				
		○	成人ヘルスケア実習Ⅱ	3後	2		45		○	◎	○	○	○				
		○	老年ヘルスケア実習Ⅰ	3後	2		45		○	◎	○	○	○				
		○	老年ヘルスケア実習Ⅱ	3後	2		45		○	◎	○	○	○				
		○	がん看護	4後	1		15		◎		○	○					
			リハビリテーション看護※	4後		1	15		◎		○	○					
			エンドオブライフケア※	4後		1	15		◎		○	○					
			救急看護※	4後		1	15		◎		○	○					
			感染看護※	4後		1	15		◎		○	○					

専門教育	子どもと家族の看護	☐	ライフステージとヘルスケア概論Ⅱ	2前	2		15		◎		<u>○</u>	☐		☐	☐
		☐	小児ヘルスケア方法論Ⅰ	2後	1		30		◎	☐		☐		☐	
		☐	ウイメンズヘルスケア方法論Ⅰ	2後	1		30		◎	☐		☐		☐	
		☐	小児ヘルスケア方法論Ⅱ	3前	2		30		◎	☐		☐			
		☐	ウイメンズヘルスケア方法論Ⅱ	3前	2		30		◎	☐		☐			
			学校保健	3前		2	15		◎		☐	☐			
			養護概説	3前		2	15		◎			☐			
			健康相談活動	3前		2	15		◎		☐	☐			
		☐	小児ヘルスケア実習	3後	2		45		☐	◎	☐	☐	☐		
		☐	ウイメンズヘルスケア実習	3後	2		45		☐	◎	☐	☐	☐		
		☐	家族看護学	4後	1		15		◎			☐			
	地域看護	☐	暮らしと地域を知る実習	1後	1		45		☐			☐		☐	◎
		☐	精神ヘルスケア概論	2前	1		15		◎		<u>○</u>	☐		<u>○</u>	<u>○</u>
		☐	地域・在宅ヘルスケア概論	2前	1		15		◎		<u>○</u>	☐		<u>○</u>	<u>○</u>
		☐	公衆衛生看護学概論	2前	2		15		◎		<u>○</u>	☐		☐	☐
		☐	精神ヘルスケア方法論Ⅰ	2後	1		30		◎	☐		☐		☐	<u>○</u>
		☐	地域・在宅ヘルスケア方法論Ⅰ	2後	1		30		◎	☐		☐		☐	☐
			健康行動科学入門	2後		1	30		◎			☐			
			健康行動科学方法論	2後		1	30		◎					☐	☐
			公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後		2	15		◎					☐	☐
		☐	精神ヘルスケア方法論Ⅱ	3前	2		30		◎	☐		☐		☐	
		☐	地域・在宅ヘルスケア方法論Ⅱ	3前	2		30		◎	☐		☐			☐
			公衆衛生看護活動論Ⅱ	3前		1	30		◎	☐	☐				☐
			公衆衛生看護活動論Ⅲ	3前		1	30		◎			☐		☐	☐
		☐	精神ヘルスケア実習	3後	2		45		☐	◎	☐	☐	☐		<u>○</u>
		☐	地域・在宅ヘルスケア実習	4前	2		45		☐	◎	☐	☐	☐	<u>○</u>	☐
			公衆衛生看護学実習	4前		5	45		☐	☐	☐	☐	☐	<u>○</u>	◎
			健康政策論	4後		1	15		◎						☐
	看護の統合	☐	看護管理と医療安全	2後	2		15		☐		◎	☐			
		☐	看護研究入門	3前	1		15		<u>○</u>				☐	◎	
		☐	多職種連携実習	3後	1		45		☐	☐	◎	☐	☐	<u>○</u>	☐
		☐	看護の統合実習	4前	2		45			☐	☐	☐	◎	☐	☐
		☐	看護研究演習	4前・後	2		30		☐			☐	☐	◎	☐
		<u>○</u>	情報通信技術と看護	4後	1		15				<u>○</u>			◎	
		☐	災害看護	4後	1		30		☐	☐	◎				☐
		☐	国際保健看護学	4後	1		30		☐						◎

専門教育	子どもと家族の看護	☐	ライフステージとヘルスケア概論Ⅱ	2前	2		15		◎			☐		☐	☐
		☐	小児ヘルスケア方法論Ⅰ	2後	1		30		◎	☐		☐		☐	
		☐	ウイメンズヘルスケア方法論Ⅰ	2後	1		30		◎	☐		☐		☐	
		☐	小児ヘルスケア方法論Ⅱ	3前	2		30		◎	☐		☐			
		☐	ウイメンズヘルスケア方法論Ⅱ	3前	2		30		◎	☐		☐			
			学校保健	3前		2	15		◎		☐	☐			
			養護概説	3前		2	15		◎			☐			
			健康相談活動	3前		2	15		◎		☐	☐			
		☐	小児ヘルスケア実習	3後	2		45		☐	◎	☐	☐	☐		
		☐	ウイメンズヘルスケア実習	3後	2		45		☐	◎	☐	☐	☐		
		☐	家族看護学	4後	1		15		◎			☐			
	地域看護	☐	暮らしと地域を知る実習	1後	1		45		☐			☐		☐	◎
		☐	精神ヘルスケア概論	2前	1		15		◎			☐			
		☐	地域・在宅ヘルスケア概論	2前	1		15		◎			☐			
		☐	公衆衛生看護学概論	2前	2		15		◎			☐		☐	☐
		☐	精神ヘルスケア方法論Ⅰ	2後	1		30		◎	☐		☐		☐	
		☐	地域・在宅ヘルスケア方法論Ⅰ	2後	1		30		◎	☐		☐		☐	☐
			健康行動科学入門	2後		1	30		◎			☐			
			健康行動科学方法論	2後		1	30		◎					☐	☐
			公衆衛生看護活動論Ⅰ	2後		2	15		◎					☐	☐
		☐	精神ヘルスケア方法論Ⅱ	3前	2		30		◎	☐		☐		☐	
		☐	地域・在宅ヘルスケア方法論Ⅱ	3前	2		30		◎	☐		☐			☐
			公衆衛生看護活動論Ⅱ	3前		1	30		◎	☐	☐				☐
			公衆衛生看護活動論Ⅲ	3前		1	30		◎			☐		☐	☐
		☐	精神ヘルスケア実習	3後	2		45		☐	◎	☐	☐	☐		
		☐	地域・在宅ヘルスケア実習	4前	2		45		☐	◎	☐	☐	☐		☐
			公衆衛生看護学実習	4前		5	45		☐	☐	☐	☐	☐		◎
			健康政策論	4後		1	15		◎						☐
	看護の統合	☐	看護管理と医療安全	2後	2		15		☐		◎	☐			
		☐	看護研究入門	3前	1		15		◎				☐	<u>○</u>	
		☐	多職種連携実習	3後	1		45		☐	☐	◎	☐	☐		☐
		☐	看護の統合実習	4前	2		45				☐	☐	☐	◎	☐
		☐	看護研究演習	4前・後	2		30		☐			☐	☐	◎	☐
		☐	災害看護	4後	1		30		☐	☐	◎				☐
		☐	国際保健看護学	4後	1		30		☐						◎

[illegible]

別添資料 16 各入学者選抜方法とアドミッション・ポリシーの関係

新									旧								
種別									種別								
学校 推薦 型選 抜	全国推薦	書類審査	調査書	○		○			書類審査	調査書	○		○				
			志願理由書		○		○	○			志願理由書		○		○	○	
		小論文審査			○	◎				小論文審査			○	◎			
		面接				○	○	○	○	面接				○	○	○	○
	地域推薦	書類審査	調査書	○		○			書類審査	調査書	○		○				
			志願理由書		○		○	○			志願理由書		○		○	○	
		小論文審査			○	◎				小論文審査			○	◎			
		面接				○	○	○	○	面接				○	○	○	○
一般 選抜	前期日程	大学入学共通テスト		◎					前期日程	大学入学共通テスト		◎					
		小論文審査		○	◎					小論文審査		○	◎				
		書類審査	調査書	○		○				書類審査	調査書	○		○			
			面接				○	○			○	○	面接				○
	公立大学 中期日程	大学入学共通テスト		◎					公立大学 中期日程	大学入学共通テスト		◎					
		書類審査	調査書	○		○				書類審査	調査書	○		○			
			面接				○	○			○	○	面接				○
社会人	書類審査	履歴書	○					書類審査	履歴書	○							
		調査書	○		○				調査書	○		○					
		志願理由書		○		○	○		志願理由書		○		○	○	○		

特別 選拔		小論文審査		<u>○</u>	<u>◎</u>			
		面接			<u>○</u>	<u>○</u>	<u>○</u>	<u>○</u>
	帰国生徒	書類審査	履歴書	<u>○</u>				
			調査書	<u>○</u>		<u>○</u>		
			志願理由書		<u>○</u>		<u>○</u>	<u>○</u>
		小論文審査		<u>○</u>	<u>◎</u>			
		面接			<u>○</u>	<u>○</u>	<u>○</u>	<u>○</u>
		小論文審査		<u>○</u>	<u>◎</u>			
		面接			<u>○</u>	<u>○</u>	<u>○</u>	<u>○</u>

		小論文審査		<u>○</u>	<u>◎</u>			
		面接			<u>○</u>	<u>○</u>	<u>○</u>	<u>○</u>